

山行報告

ご来光登山

日 時：1月1日 6：00～

場 所：高御位山往復 L：砂川延 他6名

2006 初日の出

恒例のご来光を登山に集まったのは7名のメンバーでした。

うす曇りの中、出発時はみぞれがちらついていましたが、すぐ止む。高御位山山頂に6：45着。早速、高御位山神社に参詣の後、お祝いのお神酒を頂きました。



予報では曇りのち晴れだったので、初日の出が拝めるかどうか心配しながら東の空を見ると雲が広がっていた。はじめは雲の中で見えず。待つこと15分やっと雲の間から「初日の出」が顔を覗かせた。昨年に続いて初日の出を拝むことが出来、皆、満足そうでした。

◆新春トレーニング山行 高御位山～桶居山周回

日時 平成18年1月3日(火)

参加者 L：今山 他10名

コースタイム

長尾駐車場	黒鍋岩鉄塔	高御位山頂	鷹の巣山手前分岐	鉄塔分岐
9：00	9：20	直登ルート) 10：20	10：55	11：25
桶居山山頂	鉄塔分岐	別所 池	百間岩	鹿島神社
11：55	12：20	13：35	14：40	14：50
				15：20

(昼食休：35)

感想 今山(正)

新年早々の山行に何人参加してくれるか？
内心心配していたが11名もの勇士が集まり冬独特の時雨模様の中出発、鉄塔下でいつものように休憩、じんわりかいた汗に正月休みで身体がなまったのかしんどそうな人もチラホラ目に付く。今回はいつもの巻き道ルートを使わず頂上へ、そしてわが会元気印ナンバー1原さん北池コースより合流そこで御祈念と記念撮影を済ませ縦走路へ。

天気も回復し楽になったのかにぎやかな事こ



の上なし！鷹の巣山手前より桶居方面へここからは低木の吹きさらしの山歩きだ。
途中赤い実をつけたナンテンに良く似た木がなんともあでやかだった。

尾根を渡ると西の正面にまさに桶を下にかぶせた威容の桶居山が見えてきた。
ここで写真を撮りいよいよ頂上へアタック、急登だったが15分ほどで登れた。冬晴れの中360度の
景観が楽しめ高御位と又一味違った雰囲気だ。昼食は下山路で風の当たらない広場を探す。
少々お神酒もいただき寒いので早めに出発した、昼食で足が鈍ったのか別所池付近でグループが大
きくはなれのどかな山歩きになった。しかし無理はしない させないが今回のキャッチフレーズなの
で言葉をグッと飲み込み百間岩方面へ、足元に注意をしながら登り下りの連続尾根を進んでいった。
いよいよ最終章に近づき帰りの時間の気になる人や、ペースの落ちた人もいたがそれぞれに満足感を
漂わせながら鹿島へ向かった。

鹿島神社は今年も「幸」と「福」を求めて大変な
にぎわいを見せていた。全員下山を
確認し参拝客と離合しながら帰路へ
着いた。

反省 トレーニング山行が少しマン
ネリ化しているように感じま
した。今後は時期、内容、目的
等より明確にした計画を組ん
で見たいと思った。



桶居山を背景に

◆石垣島・於茂登岳山行

日 程 1月13日（金）～1月15日（日）
参加者 L：砂川延 SL：渡邊・野々村 他7名
山行記録

1日目	コース	関 空 ⇒ 石垣空港 ⇒ ホテル ⇒ 竹富島 ⇒ 石垣港 ⇒ 夕食 ⇒ ホテル						
	時 間	9：00	12：45	13：25	14：10	17：25	17：30	19：30
	コース	ホテル出発 ⇒ 於茂岳登山口 ⇒ 滝 ⇒ 頂上 ⇒ 下山開始 ⇒ 展望台						
	時 間	8：40	9：50	10：10	10：55	11：05	12：45	(10)
2日目	コース	⇒ 八重山民俗園（食事） ⇒ 川平湾 ⇒ 野底岳登山口 ⇒ 頂上 ⇒ 野底岳登山口						
	時 間	13：20	(40)	14：20	(45)	16：15	16：30	(10) 16：55
	コース	月桃の宿「あかいし」						
	時 間	17：30						
3日目	コース	宿	日の出へ	浜へ	平久保崎	石垣空港	関 空	
	時 間	7：00	7：15	7：45	9：50 10：05	13：25	15：15	

●【感想文】 原田(勝)

あこがれの島、石垣へ好天に恵まれることを期待しながら、ANAは高度を上げながら、水平飛行へと移り、やがて24℃の滑走路へと着陸した。早速シャツ1枚になりホテルへ荷物を預けて竹富島への栈橋へ行く。波は高くうね



りもあったが、わずか15分ぐらいで目的地へ着いた。

砂はますます白く、大きな街路樹、テリハボク・リュウキュウコクタン・ハスノハギリなど、はじめて見る植物ばかり、クワズイモの葉が、ハイビスカス・ブーゲンビレアなどの花が南国の陽の光をいっぱい受けている。強風のためサンゴ礁の石垣で出来た平屋の屋根には、シーサーが守り神としてこちらをにらんでいる。

竹の子と言うラーメン屋でうまいラーメンを食べた後サンゴ礁の浜辺へと行くと、砂はもっと白く、海は表現のしようもない青さ、いや藍さで、浜辺には、センダン・モンパニキ・ハスノハギリ、マダンの実はヤシガニの好物とか。突然白いチョウが飛んでいった。パパイヤの木が多くの実をつけているのには驚いた。

約3時間のてくてく観光で竹富島の自然を満喫し、石垣島へもどった。

近くの島料理店で夕食を取ることになり、郷土料理のオンパレード。グルクンと大谷渡りのテンプラは珍しく、泡盛もすすんだ。

翌朝、7時30分に朝食を済ませ、於茂登岳へと車は走り、登山入り口の道路は未舗装でえぐれて行けず、5分ほどで登山口へ着いた。板根の木が、カラスアゲハ・キチョウが出迎えてくれた。

大きなシダ植物とか名前も知らない樹木のなかの山道を行くと、唯一の滝に出くわしたので記念撮影、また少し行くと、大木がそびえ立っておりまた記念撮影、といそがしい。

頂上へ到着したのは、1時間後であったが、まわりは笹で覆われており、少し反対方向へ下った場所から南方面の下界が望めた。下山途中でアサギマダラ・イシガキチョウにであった。ヤブニッケイ・オオタニワタリ、クワズイモも当然である。

途中、八重山酒造に立寄り試飲、昼食場所である八重山民俗園で勿論ラーメン、海底遊覧の川平では、数多くのサンゴ、熱帯魚、ウミヘビに歓喜し、パッションフルーツでは旨いジュースを、多くのチョウが舞う庭ではめ、野底岳に向けて進路を北へとる。

岳は正面からの登山道は見当たらず、背面からわずか15分で頂上に着いた。正面からは50メートルの断崖で、やはり正面からの登山をくやんだ。ノゾコマーベのマーベとは女の子の名、恋仲のカニムイが役の仕事のため遠くに行くことになり、野底山の頂上でその方向を見ても於茂登岳に立ちふさがれ、悲しんだと言う逸話が残されている。

月桃の宿に着いたが夕食には少し時間があるので、近くの浜で散歩することになり、砂道を浜へ行く途中スミナガシと言うめずらしいチョウにであった。

7時からの夕食は全員で準備し、郷土料理、泡盛、女将さんの温かいトーク、釘一本もない杉建築で、なにもかにもがすばらしかった。再び泊まりたいのは北海道からの旅人だけではないだろう。

大木のセンダン・デイゴ・名も知らない木のある宿「あかいし」に心を引かれながら石垣島最北端の平久保崎へと車は走り、そこでは初夏の旨い空気を胸いっぱい吸い込み、空港途中では宮良川ではマングローブ、しめ殺しの木の異名をもつアコウの大木を見たり、私にとっては素晴らしい旅であった。

計画していただいた砂川さん、誕生日の人ありがとうございました。



●石垣島山行 感想

石橋(久)

私の頭では旅も山も何時も北を見ている。今度の石垣島は“自分からは行動しない所だから”と写真の思い浮かべていました。でも新しい物、風景との出会いは絵ではなくとても素晴らしく美しく感動的なものでした。島影が見えてきて環礁の白波とその周囲の水の色がとてもきれい。一直線の滑走路が見えた。丁度、町はずれのところだ。この時点ではまだ暑いのはわからなかった。

バスを降りて竹富島に行くべく港に着く頃には暑くて一枚一枚脱ぎ、結局、一枚のTシャツで十分、半袖の人もいた。冷房付きの小さなボートに乗って綺麗な水の色や島影を楽しんでいたのははじめの少しの間だけ（5分間ぐらいか）、後の10分ぐらいは、ボートは飛んで・飛んで、なんとも恐怖の時間となりました。景色を見ることなど出来ません。ジェットコースターに乗っている様な心地でした。？（乗ったことはない）？島では港から歩いて民家の中を通り、珊瑚礁の岩で造った塀や独特な赤瓦に白いセメントで固めた平家の家が並んでいる中を歩いて、浜辺へでた。白くて綺麗な砂浜、水は幾重にも色を変え続けている。遥か遠くに島影が！台風が多いので瓦を固めたり、平家だったり？？植物も園芸店に並んでいるものがここには自生している。それも皆大型で何千円もするものがゴロゴロ。クワズイモなどは一面にあって何とも不思議な気分。温室へ、亜熱帯植物園へ行っただけと思う気分です。珍しい一つはアダムの木、アダムの実は人間はとても食べられないけれど、ヤシガニの食料らしい。人間はヤシガニを美味しく食べるそうです。

牧場のなかの道を通り、3時間近い竹富島散策でした。この時間がよかった。いろんな物を間近に見物できました。ブーゲンビリアやハイビスカスの花には南国に来たとつくづく感じました。

2日目のメインは何と言っても於茂登岳、登山口まで車で移動、土から出ている根が恐竜の背ビレの様に（板根と言うらしい）出ていて何もかも大ブリ。途中、静岡から来ていた男女二人（レンタルオートバイ利用）と単独の年配者に出会っただけでした。亜熱帯の植物園の中を歩いているようでした。登山道はブロックを使ってよく整備されていて歩き易かった。大変な作業だとありがたく思いながら歩く。でも頂上は竹林が背丈以上に大きくて見晴らしも悪く、すぐに下山。原田解説員の説明でアサギマダラ、カラスアゲハ、モンキ、アオスジアゲハ、カラスアゲハに赤丸のついた蝶を見ながら観葉植物の間の道を下り、パンナスカイラインを通り南の島の展望台で東シナ海を方や太平洋を望み絶景を楽しむ（何と言っても環礁に寄せる白波と砂浜の白、島の緑が素晴らしい）。4時ごろからヌスクマーベに登る。遠くから見ても、裏へ回っても、近づいても山の形は同じ。剣の穂先の様。“どうなるかしら”と誰もが思った筈。結局、15分の急登。下りも15分、お陰さまで360度の展望でよくぞ登れたと満足して記念撮影をした。

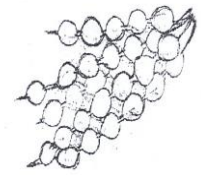


この日の宿泊先は北部の首の部分に位置するところにある民宿でした。七時から十時半まで何時もにはなく楽しい時間を過ごして郷土色豊かな材料で作った料理を沢山頂きました。砂川さんと舩賀さんは昨年に続き二度目だとか、主人と懐かしそうにいろいろお話をされていました。同宿の年配者の話や宿の主人の話などユニークな生き方の見本を見せてもらったような夜でした。最後の日は最北端の平久保灯台へ。帰路、ずっと気になっていたサトウキビ畑やパイナップル畑のサトウキビを味見することが出来た。トラクターのような機械を使って収穫しているところで車を止め、渡邊さんが交渉に降りて行く。気になって野々村さんについてゆく。作業中の人は何人と聞いて二節ぐらいづつ良いのを選んで切ってくれた。巣が入っていると言って捨てるのも拾う。野々村さんがおじさんに話しかけて、砂糖にする説明を聞く。

私は拾い集める役、渡邊さんが交渉役で、人数分もらうことが出来た。無料です。あっさりした甘さで、「煮つめる」と言うことがよく理解できました。サトウキビは2年間育て、収穫するようです。案外と時間がかかるのが不思議でした。念願かない大喜び。今、石垣島は冬なので、苗らしいものがある所の畑に植わっています。見るもの、触れるもの、皆珍しく、サンゴの
竹富島で採取したつ
木の実はです

て、山あり、観光あり、体験ありの楽しい旅でした。行く前は覚悟していた
雨もこちらでは少しの心配もなく楽しい3日間でした。計画してくださった
方、手配をしてくださった方、本当に有難うございます。

同行の仲間と一緒に体験できたことを喜んでいますが、待場さんもまた違う視点で見ておられると思うので、この辺で。



●石垣島「於茂登岳・野底岳」

待場

飛行機の窓から青い海、白い砂浜、鮮やかな緑が見えてくる。楽しみにしていた南国・石垣島に着いたと思うとウキウキ嬉しくなってきました。24℃と暖かい。石垣離島桟橋から高速船で竹富島へ飛び魚のように飛んで行くスリルを感じた。



今も沖縄文化の面影を色濃く残っているシーサーが座る赤瓦屋根の家やそれらを取り囲む石垣と赤やピンクのハイビスカス、ブーゲンビレアなど咲き誇る静かな街並みをのんびりと散策する。

そして楽しみにしていた「そば掘竹の子」でソーキそばを食べる。美味しかった。多いと思ったが全部いただきました。笑

星砂の浜を歩いていると貝獲りをしておられる島の人に出会いパイナップルとよく似た大きな実で木も大きく尋ねるとアダンの実で人間は食べられないが、ヤシガニが食べて、ヤシガニを人間が食べると教えてもらいました。

あちこちにパパイヤの木やテリハ木、大きな葉のくわす芋が生えている。デイゴ並木道を放牧の牛を見ながら、南の島のゆっくりとした時の流れを感じつつ「ゆがぶ館」、竹富港まで歩く。

今夜は大原ホテル。レストランで八重山の郷土料理を楽しむ。もずく、グルクンのから揚げ、オオタニワタリ天ぷらなど珍しかった。食後は郷土芸能を見に行き感激しました。四ッ竹の音いいですね。

2日目、沖縄県最高峰「於茂登岳」に向けて出発。熱帯植物、ヒカゲヘゴ（臣大シダ）などの原生林で緑の色が全然ちがうジャングルのようなであった。

つわぶきの黄色の花が沢山咲いているし、綺麗な蝶々もよく見かけた。歌詞にあるように「春夏秋冬緑の島よ」と思いながら楽しく登ることが出来ました。

526m頂上、石垣中継局のアンテナが立っていた。笹林を少し太平洋側に降りると底原ダムなどが見えて見晴らしも良かった。「バンナ森林公園」の展望台で、いま登って来た「於茂登岳」をバックに記念写真を撮る。



山頂が尖った野底岳

途中、昼食を済ませた後、次の目的地「川平湾」へ。

砂浜とエメラルド色の海、空、湾内に浮かぶ小さな島々のコントラストはなんともいえない。素晴らしい景色の川平湾をグラスボートで、遊覧する。色鮮やかな熱帯魚など、大きな水槽のような気がし

た。サンゴの種類が多いのにビックリしました。

さとうきび、パイナップル畑や牛がのんびり歩く牧歌的な風景を見ながら東シナ海を左に野底岳(別名：ヌスクマーベ) に向かう。短時間コースを登る。観光した後で疲れていたため、私にはこの方が良かったかな。標高282mの頂上には大きな石が積み重ね合っていて、本当にとんがり山であった。石垣島にある山の山頂に立つなんて夢のようでした。ソテツの山に見とれていると民宿の月桃の宿「あかいし」に着きました。

郷土料理で家庭の味ご馳走をいっぱい頂き、おかみさんや皆さんの話を聞いて、胸が熱くなりいろいろと考えさせられました。最後に島の歌を歌ったりして楽しかったです。

翌日、石垣島の最北端にあたる岬。平久保崎、白い灯台と青い海、無人島の緑と素晴らしい風景に見入る。宮良川のマングローブ林を見学して石垣空港へ。南国の開放的で明るい雰囲気はやっぱりいいですね。日本は広いと思いました。三日間とも好いお天気に恵まれ、最高のたびが出来たことが嬉しく、喜んでいます。また、チャンスがあれば是非、行きたいです。

会長さんはじめ皆さん本当に有難うございました。



◆【とんだハプニングのあった【平荘湖:升田山から飯盛山周回ハイク】

日 時：平成18年1月22日(日)

場 所：平荘湖周回ハイク

参加者：L 山内公12名

コースタイム

【感想】 砂川(美)

休日を楽しむ人達でにぎわっている平荘湖、ウォーキングをする人も多く、目の前には湖が広々していて、遠足に来たような晴れ晴れとした気分での出発。お天気も青空で空気も澄んでいる。周遊路に入ったとたん、人が倒れていて2～3人が不安そうにしているのが見えた。

みんな思わず走り寄って、救急隊へ電話をかける人、声をかける人、新聞を皆で出してコンクリートの地面なので乗せ変えたり、それぞれが服を脱いでかけたりしながら救急車を待った。研修会が後手に回っているが、いつも危険と隣り合わせの山登りの仲間は、みんな素早くて、親切で優しい。

それにしてもウォーキング中での心臓発作か脳梗塞か分からないが、冬の寒さの仲での単独行動は、年を重ねると危ないと思った。

ピーポーの音を後に、升田山に登る。冬枯れと痩せた山土なので樹が細々として低木ばかり100メートル位の山だったが古墳群が10基以上もあって驚いた。どんな人達が埋葬されていたのか中は盗掘されていると記されているが、昔の豪族か、上荘や平荘の地名から荘園の地主かな、などと勝手なことを考えながら、それでも昔から営々と継いだ歴史とその一瞬を生きている自分たちのことを思ったりした。

低い山でも登ってみると見晴らしがよく

場 所	着時刻
ウエルネスパーク着	9:00発
升田山頂上	10:00
升田山下山平荘湖	10:27
風土記道	10:50
飯盛山の手前	11:20
飯盛山頂上	12:15
飯盛山頂上	12:30発
洞貝山へ	13:00
少年の家	13:10
黒岩山入り口	13:20
神吉山	13:30
東播工校	14:10
ウエルネスパーク着	14:30



360° 一望、全開である。見慣れた加古川や橋、田畑、家並み、工場から海まで、西の方にいつもの高御位山が大きくみえる。

平荘湖の堰堤を歩いて向かい側の飯盛山に登る。高御位山と同じ質の岩盤の山で、つつじの木も多い。グルッと廻ったので今度は南に平荘湖が広がり大きくて水面がキラキラして本当に美しい。

天気が良いので東の山々、明石大橋、北の方の雪をかぶった山も見える。

早目の昼食を済ませたが、まだまだ相の山から少年自然の家、黒岩山、行者山、神吉山と結構長い道のりで、私はリーダーの近くにいたが、いつもブレイキ役だった。

急に感想文を依頼され、記録もせずリーダーの後に歩くだけだったので、どうしようと思った。いつも言われていること、登る山のことや、辿ろうとするコースを知り、頭に入れ、記録もしながら楽しみを倍にして参加することを改めて決意したことでした。

